

臨床栄養全史

目次

はじめに 3

第1章 経腸栄養法の変遷

13

経腸栄養はなぜ重要なのか 14

古代エジプト・ギリシャ時代 14

その後19世紀まで 19

19世紀～今日まで 21

栄養投与チューブの変遷 22

経腸栄養剤の変遷

成分栄養剤の開発 25

低残渣栄養剤全盛時代 38

第2章 非経腸栄養法の変遷

非経腸栄養とは何か? 42

黎明期の輸液 42

コレラの蔓延と輸液 46

第3章 血液循環生理と代謝及びストレス反応の解明

血液循環生理の解明 50

グルコース代謝の解明 52

カスバートソンによるストレス反応の研究 55

ムーアによる損傷からの回復過程の研究 61

第4章 完全静脈栄養法の開発

ローズの功績 76

ダドリックのTPN開発へのチャレンジ 81

無菌的投与方法 83

高張糖液投与に関する問題

マイラード反応の抑制

86

低リン血症について

87

栄養素としての脂肪投与

88

微量元素とビタミン

89

投与器具の開発

91

リフィーディング症候群

93

第5章 生理食塩水の変遷

輸液とは何か？

98

コレラの蔓延とラッタの食塩水静注治療

100 99

ハーマンとステイーブンスのコレラ研究

100 103

天才オーシャナジーの業績

105

ラッタによるコレラの治療

105

マツキントッシュの報告

109

食塩水治療の失敗と復活

110

第6章

輸液製剤の発展

理想的な輸液製剤とは?	138	ハンバーガーの <i>in vitro</i> 実験	111
各輸液製剤の特性	139	「生理食塩水」の使用と問題点	113
生理食塩水の動物実験での検討	147	生理食塩水は本当に「生理的」か?	
健常成人ボランティアでの検討	149	「生理食塩水」が生理的ではないわけ	
周術期の輸液管理	151	生理食塩水の酸性度を探る	122
希釈性高クロール血症性アシドーシスの胃腸機能への影響	158	生理食塩水、balanced crystalloids やしで new balanced crystalloids?	118
I C U 重症患者の蘇生液管理	160	高クロール血症性アシドーシスは本当に有害か?	131
			124

第7章 ERASプログラムへの取り組み

ERASとは何か？

目的指向型輸液療法

172 168

術前の水分管理

術中の水分管理

術後の水分管理

180 175 173

第8章 静注用脂肪乳剤の開発

脂肪乳剤と必須脂肪酸欠乏症

188

脂肪乳剤開発における日本人の役割と米国での状況

189

S O F E 製剤の副作用とその対策—新しい脂肪乳剤の開発

203

n - 3系多価不飽和脂肪酸（P U F A）のメカニズム

204

脂肪乳剤の血中からのクリアランス

193

日本における脂肪乳剤の使用状況

209

185

167

第9章 静注用アミノ酸製剤の開発

エルマンのアミノ酸の経静脈投与
マッデン・SCとホーエ・EE 215

成人のタンパク質最低必要量の算出 215

TPN用アミノ酸製剤の開発 219

特殊処方のTPN用アミノ酸製剤 220

218

第10章 日本静脈経腸栄養学会の歩み

239

211

おわりに

246

参考文献

274

人名索引

278